



会 報

69

静岡エネルギー・環境懇談会

2023年 新年ご挨拶

静岡エネルギー・環境懇談会 会長 奥野 健二



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆さまには、明るい年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症は、昨夏には新たな変異株による最大の感染拡大はあったものの、日常生活や企業活動での感染防止対策やワクチン接種率向上などにより重症化のリスクが抑制され、行動制限緩和による経済活動との両立を目指した年であったと思います。

3月には福島県沖地震による一部火力発電所の停止や季節外れの寒波により制定後初となる「電力需給逼迫警報」が発令されました。また、6月には記録的な猛暑に見舞われ、全国規模での節電要請がなされるなか、東京電力管内では予備率が5%を切る見込みとなり、初の「需給逼迫注意報」が発令され、更には冬の電力不足が言われるなど、電力の安定供給に不安を感じる年でもありました。

海外では、2月に始まったロシアによるウクライナへの軍事進攻は、国際的なエネルギー資源の地政学的リスクを高め、エネルギーの多くを海外に依存する日本にとっては、エネルギーセキュリティの観点からも大きな影響を受けています。LNG（液化天然ガス）、石炭、原油などのエネルギー資源の高騰に加え円安の影響もあり、生活に欠かせない電気、ガス、ガソリンや多くを輸入に頼る食品原料などの値段も上がり、家計にも厳しい年になりました。

政府は、電力需給逼迫やエネルギー価格の高騰などの状況を踏まえ、「2050年カーボンニュートラル」の目標達成に向けたGX（グリーントランスフォーメーション）実行会議にて、「日本のエネルギーの安定供給の再構築」を掲げました。原子力政策については、2030年までを見据え官民で再稼働の加速を図るべく、既に再稼働している原子力発電所の設備利用率の向上を図るとともに、今年の夏以降に向けては、それ以外の新規制基準適合性審査をクリアした原子力発電所の地元の理解確保が進むよう国が前面に立って対応していくことを明確にしました。

さらに、再稼働の先の展開を見据え、次世代革新炉の開発・建設、運転期間延長のあり方などが検討され、エネルギーミックスに根ざした我が国のエネルギーセキュリティの実現が期待されるところであります。

当会としましては、このような状況の中、感染防止対策を行いながらエネルギー関連施設見学会、放射線に関する出張授業・セミナー、各種情報提供などの活動を継続的に実施しております。脱炭素やGX実行会議などのエネルギー政策の現状を踏まえ、今まで以上に、原子力発電を含めたエネルギーミックスや地球温暖化問題についても伝える活動が重要と考えております。コロナ禍で活動が制約される中ではありますが、「face to face」での活動を基本として展開してまいります。引き続き、会員の皆さまのご支援・ご協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

結びとなりますが、皆さまの今後益々のご活躍とご健勝ご多幸をお祈り申しあげ、新年のご挨拶とさせていただきます。

～事業活動の実施状況～

今年度も新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中ですが、「感染防止対策の徹底」を図りながら実施している活動について紹介いたします。

1. 会員見学会

2022年11月17日(木)～18日(金)に18名の皆さまに参加いただき開催しました。

今回は、国のエネルギー政策「第6次エネルギー基本計画」で、脱炭素に向け主力電源化に掲げられている再生可能エネルギー、次世代エネルギーと注目されている水素の研究施設及び福島第一原子力発電所の廃炉の取り組みを紹介する廃炉資料館を見学しました。

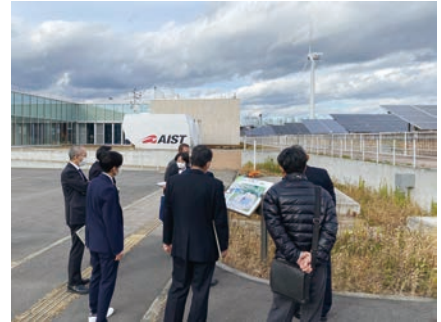
(1) (国研)産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所【FREA】(2022年11月17日)

FREAは、再生可能エネルギーに関わる開かれた世界最先端の研究と新しい産業の集積を通じた震災からの復興支援という二つの大きなミッションを掲げ、2014年4月産業技術総合研究所の新たな研究拠点として福島県郡山市に設立された広大な実証フィールドを有する研究施設です。



(ライダーの説明の様子)

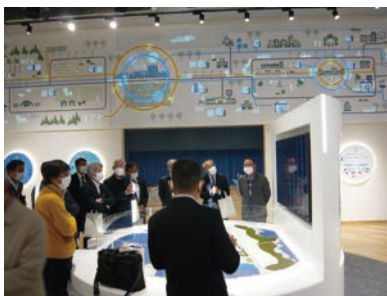
当日は、地中と地上の温度差を利用して冷暖房や融雪を行う地中熱利用システム、ライダー(レーザー光線によって風速・風向きを計測する装置)の活用により風車の性能・信頼性を向上させる取り組みについてご説明いただきました。



(実証フィールドの概要説明の様子)

(2) 福島水素エネルギー研究フィールド【FH2R】(2022年11月18日)

FH2Rは、2020年3月に福島県浪江町で開所した再生可能エネルギーを利用したグリーン水素を製造する実証運用施設です。18万m²の敷地内に20メガワットの太陽光発電設備を備え、水素製造用電力として10メガワットで電気分解が出来る水電解装置を用いて水素を製造しています。この水電解装置を定格運転で1日運転した場合の水素製造量は、一般家庭約150世帯の1ヵ月分の消費電力に相当する電力量に相当し、世界最大級の規模を誇ります。



(併設するPR施設内での説明の様子)

ここでは、再生可能エネルギーの利用拡大を見据えた電力系統の需給バランス調整のための水素活用、水素を「作り」、「貯め・運び」、「使う」という実社会で利活用する事業モデルの確立などの実証試験が行われています。ゼロカーボンシティを進める浪江町では、再生可能エネルギー由来の浪江産水素の地産地消を目指しているとのことのお話がありました。



(水電解装置前での説明の様子)

(3) 東京電力廃炉資料館(2022年11月18日)

福島第一原子力発電所の事故の記憶と記録を残し、二度とこのような事故を起こさないための反省と教訓を社内外に伝承する目的で2018年11月に開設された資料館です。

事故当時の状況や汚染水・処理水の対策、燃料取り出し、燃料デブリ取り出しなど、現在の進捗状況や課題について、ご説明いただきました。



(汚染水・処理水対策の説明の様子)

2. エネルギーに関する情報発信

今年度、新たな取り組みとして、日本のエネルギー問題について、若い世代が関心を持ち理解を深めていただくことを目的に、インターネットWebサイト「womo」のコラムに「今、学んでおきたい暮らしに関わるエネルギーのこと〜エネルギーミックスってどーゆーこと?教えて吉橋先生!!」を掲載しました。



吉橋幸子さん(名古屋大学 大学院工学研究科総合エネルギー工学専攻 准教授)を講師に迎え、私たちの暮らしに密接に関わるエネルギー問題について、womoモニターのお二人に学んでいただきました。

内容は、資源に乏しい日本が、安全性(Safety)を大前提とし、自給率(Energy Security)、経済効率性(Economic Efficiency)、環境適合(Environment)のS+3Eを同時達成するために、さまざまな電源の長所、短所を解りやすく説明していただき、どのよう

な電源構成が望ましいか、自らの問題として考えていただきました。

3. 放射線に関する情報発信

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、従来の集合型イベント(カルチャー教室+講師による講演)の実施が難しい状況が続いているため、昨年度に引き続き、「放射線」を正しく理解いただく情報発信をラジオ放送で実施しました。

SBSラジオ(静岡放送)「ふくわうち」のコーナーにて、10月26日から毎週水曜日の3回シリーズで岡田往子さん(東京都市大学 理工学部 原子力研究所 客員准教授)とパーソナリティ内山絵里加さんとの掛け合いで実施しました。

内容は、「暮らしの中の放射線」について、放射線は身近にあること、放射線の健康への影響、放射線が医療・工業の分野で利用されていることなどについて解りやすくお話しいただきました。



【12月1日静岡新聞(夕刊)掲載記事】

その後、放送を聴いた「アステン」サポーター2名と岡田さんとの座談会をフリーアナウンサー長谷川玲子さんの進行で実施しました。参加者からは、「放射線と聞くと、怖いイメージがあったが、普段食べている食べ物の中にも放射性物質が含まれていて身近にあることを初めて知った」、「岡田先生とお話して正しい知識を持って判断することが重要ということが分かった」といった感想がありました。



【霧箱での放射線飛跡観察の様子】

今回のラジオ放送、座談会の内容については、新聞、情報紙を活用して広く静岡県の皆さんへ情報発信をしました。



【ラジオ収録の様子】



【12月3日アステン掲載記事】

4. 出張授業・出前教室

放射線に関する出張授業・出前教室では、放射線の基礎について学んだあと、簡易霧箱を使った放射線の飛跡観察や簡易測定器を使用した放射線の特性実験（距離による違い、しゃへいによる違いを学ぶ）を実施しています。12月末現在の実施状況は、以下のとおりです。

(1) 出張授業

小学校(3校) 中学校(2校) 高等学校(5校) 大学・専門学校(3校)

(2) 出前教室

会員企業(4件、延べ7日) 一般(2団体)

5. 企画展

科学館などで開催される科学イベントに出展し、簡易霧箱による放射線の飛跡を観察する科学実験を実施しています。12月末現在の実施状況は、以下のとおりです。

- ・自主企画「見えない放射線を見てみよう」：5月21日(土)～22日(日) 浜松科学館
- ・サイエンスフェスティバルin る・く・る2022：8月14日(日) 静岡科学館 る・く・る
- ・体験科学実験2022 inぬまづ 第10回大会：10月23日(日) 沼津市立第五中学校

6. 見学会

エネルギー関連施設への見学会は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う人数制限等の制約はありますが、関係各所のご協力により実施しています。12月末現在の実施状況は、以下のとおりです。

浜岡原子力発電所見学 中学校(2校) 高等学校(9校) 一般(3団体)
駿遠変電所見学 高等学校(5校) 一般(1団体)

7. 今後の主な行事予定(1月～3月)

(1) 出張授業：中学校(5校) 高等学校(1校)

(2) 出前教室：会員企業(1件)

(3) 「サイエンスピクニック2023」に「放射線の飛跡観察」を出展します。

開催日：2023年3月12日(日) 13:00～16:00

場 所：静岡科学館 る・く・る 9FL 企画展示室

◆ 随 時 募 集 ◆

・ エネルギー関連情報の配信(原則土日・祝日を除く毎日)

報道やコラム等エネルギーに関連する情報をお届けします。

(会員でご希望の方は、「当懇談会ホームページお問い合わせ」より所属・役職、氏名、配信希望のメールアドレスをお知らせ願います。)

編 集 後 記

2022年10月3日付で副会長の梅原 弘充様が村山 栄之様に交代されましたのでお知らせいたします。梅原様には約2年に亘りご指導・ご鞭撻いただき誠にありがとうございました。

気持ちを新たにエネルギー・放射線について、解りやすい情報発信に努めてまいります。

今年も皆さまのご支援・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

(事務局一同)

〒420-0032 静岡市葵区両替町2丁目4-15(静岡O.Nビル8階)

静岡エネルギー・環境懇談会

TEL(054)253-4140

FAX(054)253-4160

